

授 業 概 要

平成30年度

群馬医療福祉大学 大学院
社会福祉学研究科

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

目 次

福祉倫理特論	1
社会福祉原理特論	2
社会福祉倫理・学説史研究	3
社会福祉経営特論	4
社会福祉法制特論	5
高齢者福祉特論	6
児童福祉特論	7
精神保健特論	8
福祉心理特論	9
福祉サービス市場特論	10
医療・福祉教育方法特論	11
社会調査特論	12
社会福祉経営研究・演習	13
福祉事業経営特論	14
人事労務管理特論	15
福祉事業経営研究・演習	16
地域福祉経営特論	17
社会福祉行財政特論	18
地域福祉計画特論	19
地域福祉経営研究・演習	20
地域看護研究・演習	21
ソーシャルワーク特論Ⅰ	22
ソーシャルワーク特論Ⅱ	23
ケアマネジメント特論	24
ソーシャルワーク研究・演習	25
修士論文研究指導の概要	26～27

教育課程等の概要（平成30年）

社会福祉学研究所 社会福祉経営専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年		2年		担当教員
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
共通基礎分野	福祉倫理特論	2		●				鈴木 笹澤 笹澤 土屋 高野 白井 木下 江島 相川 川村 大野 八木 塚本 白石 黒澤
	社会福祉原理特論	2		●				
	社会福祉理論・学説史研究	2			●			
	社会福祉経営特論	2		●				
	社会福祉法制特論		2		○			
	高齢者福祉特論（隔年）		2		○		○	
	障害者福祉特論（隔年・H31年度開講）		2		○			
	児童福祉特論		2		○		○	
	精神保健特論（隔年）		2	○		○		
	比較（国際）福祉特論（隔年・H31年度開講）		2	○		○		
	福祉心理特論		2	○		○		
	福祉サービス市場特論		2	○		○		
	医療・福祉教育方法特論		2		○		○	
	社会調査特論		2	●				
	社会福祉経営研究・演習		2	▲	▲	▲	▲	
小計（15科目）		12	18					
福祉事業分野	福祉事業経営特論		2		○			川島 笹澤 森田 川島
	福祉施設経営特論（隔年・H31年度開講）		2		○			
	人事労務管理特論		2	○		○		
	福祉事業経営研究・演習（隔年）		2	△	△	△	△	
小計（4科目）			8					
地域福祉分野	地域福祉経営特論		2	○				笹澤 高井 川村 笹澤 樋口・西山・島田
	社会福祉行財政特論		2		○			
	地域福祉計画特論（隔年）		2	○		○		
	地域福祉経営研究・演習		2	△	△	△	△	
	地域看護研究・演習		2	△	△	△	△	
小計（5科目）			10					
福祉専門分野技術	ソーシャルワーク特論Ⅰ	2		●				新木 真下 黒澤 中越
	ソーシャルワーク特論Ⅱ	2			●			
	ケアマネジメント特論		2		○			
	ソーシャルワーク研究・演習		2	△	△	△	△	
小計（4科目）		4	4					
論文	修士論文研究指導	6		●	●	●	●	鈴木 笹澤 大野 江島 白石
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
小計（1科目）		6						
合計（28科目）		22	40					
学位又は称号	修士（社会福祉学）							

※●は必修、▲は必修演習、△は選択演習

授業科目

■ 福祉倫理特論

担当教員	鈴木 利定
開講期	1年次
単位	2
学修目標	倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠（良知）が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体の力行を重んずる人を育てることを主眼とする。
講義の内容 (基本的枠組)	対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体の力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善悪の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の錬成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション : 講義内容の説明</p> <p>【第2回】 当校、伝統の建学精神 : 当校の礎と学統</p> <p>【第3回】 〃 : 提言字の解義</p> <p>【第4回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第5回】 当校の教育理念 : 理気説の提言 (1)</p> <p>【第6回】 〃 : 理気一元説の導入 (2)</p> <p>【第7回】 〃 : 提言字の本義</p> <p>【第8回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第9回】 儒教倫理 : 特色</p> <p>【第10回】 儒教倫理 (1) : 特性 (1)</p> <p>【第11回】 儒教倫理 (2) : 特性 (2)</p> <p>【第12回】 家庭生活と倫理の発現 : 倫理思想の体認</p> <p>【第13回】 家庭生活と倫理の発現 : 〃</p> <p>【第14回】 社会生活と倫理の発現 : 同上及び建学精神、教育理念の体認</p> <p>【第15回】 職業と人生 (就業規則と職業倫理を含む) : 当校、諸学部諸学科の顕彰</p>
受講生への要望	仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。
評価の方法	授業でのコメントは20点、期末筆答試験は40点、レポートは40点、総合点100点満点となります。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育 鈴木利定・中田勝 著</p> <p>【参考書】 随時指示</p>

授業科目

■ 社会福祉原理特論

担当教員	笹澤 武
開講期	1年次
単位	2
学修目標	社会福祉学の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。 同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。
授業計画	<p>【第1回】 授業計画、参考文献、資料収集</p> <p>【第2回】 社会福祉の用語変遷（福祉概念の発展）</p> <p>【第3回】 社会福祉の基本前提（生物、文化社会的面）</p> <p>【第4回】（人間存在としての生など）</p> <p>【第5回】（現代社会福祉理念の諸問題）</p> <p>【第6回】（個の確立）</p> <p>【第7回】（国家福祉の理念）</p> <p>【第8回】（人間的理念：人権、個人の尊厳、生命の尊厳）</p> <p>【第9回】（人間的理念：平等の理念、自由の理念、自立の理念）</p> <p>【第10回】（愛他理念：理念と展開）</p> <p>【第11回】 社会保障、社会福祉の理念をさぐる</p> <p>【第12回】 20、21世紀の福祉理念</p> <p>【第13回】 わが国の憲法の示す福祉理念</p> <p>【第14回】 行政の示す社会福祉</p> <p>【第15回】 講義のふりかえり</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p>
受講生への要望	
評価の方法	発表（30%）・レポート提出（70%）等を総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>【参考文献】</p> <p>「社会福祉の発見」 あいり出版</p> <p>「生命倫理」 弘文堂</p> <p>その他</p>

授業科目

社会福祉経営特論

担当教員	土屋 昭雄
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健全経営を確保するために、経営論、管理論に関する知識を深めるとともに経営管理者の立場で実践すべき事項について理解する。 ・ 顧客満足の基礎となるサービスの質の向上とサービスの〔品質〕管理について学ぶ。 ・ スタッフが能力を発揮し意欲的に働くために、採用から研修、労務管理のあり方等について学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>本講座では、社会福祉事業の経営環境の変化とその中で存続発展するための経営のあり方についての知識を深めていく。福祉事業における経営管理者として活躍するために、理解し、身につけておくべき事項を具体例を通じて学んでいく。</p>
授業計画	<p>【第1回】 社会福祉事業の意義と経営構造 【第2回】 社会福祉事業の歴史 【第3回】 社会福祉事業をめぐる関連法制度 【第4回】 社会福祉事業の経営と管理 【第5回】 社会福祉事業の組織管理 【第6回】 社会福祉サービスの人事管理 【第7回】 社会福祉事業の労務管理 【第8回】 社会福祉事業の財務・会計管理 【第9回】 社会福祉事業の建物・設備管理 【第10回】 社会福祉事業のサービス管理 【第11回】 社会福祉事業の情報管理 【第12回】 社会福祉事業の危機・安全管理 【第13回】 社会福祉事業の戦略管理 【第14回】 社会福祉事業の経営とステークホルダーマネジメント 【第15回】 総括</p>
受講生への要望	<p>マネジメントの基礎理論を把握するとともに、それらの社会福祉事業への適用を学習する。テキスト、参考書等を熟読し主体的に授業に参加することが望まれる。</p>
評価の方法	<p>レポート70%、受講態度30%。</p>
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 宇山勝儀・小林理編『社会福祉事業経営論』光生館 2011年.</p> <p>【参考書】 P.F. ドラッカー著 上田惇生編訳『マネジメント - 基本と原則 -』ダイヤモンド社 2001年.</p>

授業科目

■ 社会福祉法制特論

担当教員	高野 芳久
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	福祉サービス、社会保障の基礎となる法制度の理解と、利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段を実践的に研修する。
講義の内容 (基本的枠組)	1) 社会福祉に関する法制度につき説明できる。 2) 利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段をについて説明できる。
授業計画	<p>【第1回】 権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む)</p> <p>【第2回】 憲法と人権保障</p> <p>【第3回】 意思能力・行為能力・意思表示</p> <p>【第4回】 契約(消費者保護制度を含む)</p> <p>【第5回】 成年後見制度</p> <p>【第6回】 婚姻(DV防止法を含む)</p> <p>【第7回】 親子・親権(児童虐待防止法を含む)</p> <p>【第8回】 扶養(高齢者虐待防止法を含む)</p> <p>【第9回】 行政活動</p> <p>【第10回】 行政救済</p> <p>【第11回】 社会福祉法制概説</p> <p>【第12回】 社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ</p> <p>【第13回】 社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ</p> <p>【第14回】 成年後見制度に関する判例研究Ⅰ</p> <p>【第15回】 成年後見制度に関する判例研究Ⅱ</p>
受講生への要望	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。授業には演習も含まれるので、討議にも積極的に参加すること。
評価の方法	①レポート・試験60% ②発表40%
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館, 2011年 ・宇山勝儀・船水浩行 編著「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房, 2010年 ・「社会福祉六法」(最新のもの) 新日本法規 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時にその都度説明する。

授業科目

高齢者福祉特論

担当教員	白井 幸久
開講期	1, 2年次
単位	2
学修目標	高齢者福祉の基盤となる人権思想、法制度などを学び、高齢者の生活の安定、安心、生きがいなどを支援するための理論と実践の能力を事例などを通して研究し、身につける。
講義の内容 (基本的枠組)	わが国では、長寿を手に入れたが、果たしてその最終ステージは豊かなものなのだろうか。高齢者福祉特論では高齢者福祉について、人権思想の源流をたどり、現代社会の法体系、制度、施策などを学ぶとともに、それらの基本的理念と生活の現実の関係を理解する。そして、事例などによって、理念や法などが現実の生活にどのように活かされているのか、また、その課題について実証的に研究する。
授業計画	<p>【第1回】 高齢者福祉における生活の支援について</p> <p>【第2回】 生活支援を人権思想について</p> <p>【第3回】 高齢者と家族・看取り・孤独死等について</p> <p>【第4回】 高齢者と経済について</p> <p>【第5回】 高齢者福祉のための施策の展開</p> <p>【第6回】 高齢期を支える所得保障制度</p> <p>【第7回】 高齢期を支える介護保険制度</p> <p>【第8回】 高齢期を支える権利擁護制度</p> <p>【第9回】 介護保険のサービス体系</p> <p>【第10回】 地域包括ケアシステムについて</p> <p>【第11回】 高齢者を支える人材養成の課題</p> <p>【第12回】 地域で暮らすために</p> <p>【第13回】 高齢者を支える町づくり</p> <p>【第14回】 ソーシャルアクションと高齢者</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、まとめていく心構えが大切です。授業の教材や文献をよく読んでおくことが必要です
評価の方法	①期末試験(レポート)(60%)、②授業での課題に対する取り組みの評価(40%)
テキスト・参考書	①テキスト、資料、プリントなどを使用する。②授業の中で参考文献などは提示する。

授業科目

■ 児童福祉特論

担当教員	江島 正子
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	児童福祉の理念はこどもの権利を保障することである。わが国において児童福祉の基本理念は日本国憲法に立脚する。児童福祉法は成立から60年余が経過した。こどもの権利を保障する考え方は戦前と戦後では大きな相違がある。人権に対する基本的概念、こどもの養育に関する考え方には、180度の転換が見られる。欧米の先進諸国の児童福祉についての歴史や理念を参照にしながら、わが国におけるよりよい児童福祉のあり方を研究する。
講義の内容 (基本的枠組)	小さく幼いこどもを中心に児童福祉の理論と実践についての歴史を振り返り、世界各国とわが国を比較し、日本の児童福祉の特徴を追及する。現在のわが国における児童福祉の長所は何か。短所は何か。海外において模範にできる事例は何かについて考察する。
授業計画	<p>【第1回】 自己紹介 児童福祉を要とした乳幼児の人間形成に関するアンケート</p> <p>【第2回】 アンケートの結果とわが国における幼いこどもの保育の歩み</p> <p>【第3回】 乳幼児の人間形成における世界の歩み</p> <p>【第4回】 近代史にみる保育思想史</p> <p>【第5回】 ロバート・オーエン フリードリッヒ・フレーベル エレン・ケイ</p> <p>【第6回】 マリア・モンテッソーリ Casa dei bambini</p> <p>【第7回】 デイバイト</p> <p>【第8回】 児童福祉とは何か 児童福祉の理念と歴史 児童福祉の定義 保育と児童福祉</p> <p>【第9回】 児童福祉の分野 児童福祉の理念 日本国憲法</p> <p>【第10回】 児童福祉法 児童福祉の理念 児童福祉の法的根拠づけ 保育の理念</p> <p>【第11回】 わが国の児童福祉の歴史 明治期の児童福祉 大正期の児童福祉 昭和期の児童福祉</p> <p>【第12回】 平成期の児童福祉 今日児童福祉に登場した諸問題</p> <p>【第13回】 家庭環境をめぐる環境の変化 児童の権利擁護</p> <p>【第14回】 こどもに内在する「いのち」を尊重する児童福祉</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	<p>欠席・遅刻は授業時間前に届け出ること。デイバイトや・ミニレポート・発表などを通して自分の研究テーマを自主的に調べる。</p> <p>講義内容とみずから選んだ課題について常に意識し、与えられた期限内に問題解決を努める。</p>
評価の方法	定期試験 (50%) ミニレポート (30%) の提出 自分の意見の発表 (20%) で総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>才村 純 編著 『保育者のための児童福祉論』 樹村房</p> <p>江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社</p> <p>マリア・モンテッソーリ著 『モンテッソーリの実践理論ーカルフォルニア・レクチャ』 サンパウロ社</p>

授業科目

■ 精神保健特論

担当教員	相川 章子
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	精神保健福祉に関する基礎的総論的内容について把握した上で、精神保健福祉特有の現状と課題について深める。そしてこれらの課題が精神保健福祉のみならず、ソーシャルワーク全体への般化および応用について考察し深めることを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	精神保健および精神障害のある方を取り巻く状況について、歴史的・全体的にとらえ、日本および欧米諸国における動向をふまえつつ、その延長線上にある現在の精神保健福祉におけるソーシャルワークの実践およびその課題について学び、検討する。また、世界的な潮流としてのリカバリーを軸に、ストレングス、エンパワメント、ピアサポート、ナラティブアプローチなどの新たなアプローチ方法から、アウトリーチやオープンダイアログなどの具体的な方法論について触れながら、日本の今後について検討する。
授業計画	<p>【第1回】 精神保健福祉の歴史的背景（1）</p> <p>【第2回】 精神保健福祉の歴史的背景（2）</p> <p>【第3回】 精神障害者福祉における生活支援の現状と課題（1）</p> <p>【第4回】 精神障害者福祉における生活支援の現状と課題（2）</p> <p>【第5回】 欧米諸国における精神保健福祉の動向（1）</p> <p>【第6回】 欧米諸国における精神保健福祉の動向（2）</p> <p>【第7回】 精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開① ストレングスとエンパワメント</p> <p>【第8回】 精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開② リカバリー</p> <p>【第9回】 精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開③ セルフヘルプとピアサポート</p> <p>【第10回】 ソーシャルワークにおける当事者主体</p> <p>【第11回】 プロシューマー萌芽に見るパラダイム転換の可能性①アメリカのプロシューマーの動向と課題</p> <p>【第12回】 プロシューマー萌芽に見るパラダイム転換の可能性②日本のプロシューマーの動向と課題</p> <p>【第13回】 専門職と当事者の協働①支援するもの-されるもの（二元論的支援関係）からの脱却</p> <p>【第14回】 専門職と当事者の協働②循環的支援関係の模索</p> <p>【第15回】 まとめ～受講者の研究関心に引き寄せて～</p>
受講生への要望	自らのこれまでのすべての経験を生かして、ディスカッションに積極的に参加されることを望みます。
評価の方法	<p>(1) 平常点 30%</p> <p>(2) 参加状況およびディスカッション 30%</p> <p>(3) レポート 40%</p>
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>野中猛「心の病-回復への道」岩波新書 2012</p> <p>相川章子「聖新障がいピアサポーター」中央法規 2013</p>

授業科目

福祉心理特論

担当教員	大野 俊和
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	福祉心理学の概要を学ぶとともに、当該領域の研究論文を読み、重要情報の読み取り方、レジユメの作成方法を学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	福祉心理学はきわめて新しい学問である。そのため、この学問は統一したメタ理論や問題意識をもっておらず、社会福祉に関連するテーマをもつ臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学の知見を寄せ集めた段階である。そのため、本講義では、発達心理学、認知心理学、社会心理学での関連基本概念を紹介した後に、社会福祉と結びついた個々の研究例を紹介していく予定である。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第3回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第4回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第5回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第6回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第7回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第8回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第9回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第10回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第11回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第12回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第13回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第14回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	レジユメを事前に参加人数分用意しておくこと。
評価の方法	授業内コメント30点、授業内レジユメ50点、レポート20点。
テキスト・参考書	授業内で適宜指示する。

授業科目

福祉サービス市場特論

担当教員	八木 大輔
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	<p>2000年の介護保険施行以来、福祉サービス市場における高齢者サービスの供給量は爆発的な増加を見せた。それに伴い供給主体や介護サービス（事業所）の種類も多岐に渡るようになってきていることから、本授業では高齢者介護分野に絞ってサービス毎の特徴やその市場性を把握する。また本授業では実際の介護サービス事業者の事例検討や見学訪問を通じて、サービスマーケティングやアカウンティングの視点から、その成功要因を分析し自身の追体験としてインプットする。</p> <p>その上で、受講者が現在所属する法人および事業所における課題についての対応と対策の発表、これから起業を考える受講者については、想定している市場における提供サービスの分析と事業方向性の発表を最終的な本授業の着地点とする。</p>
講義の内容 (基本的枠組)	<p>①市場の理解と市場における立ち位置の確認 ②市場理解のための基本的ツールの作成 ③福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 ④市場の分析手法 ⑤福祉事業の組織と経営 ⑥近年の市場トレンドと課題</p>
授業計画	<p>【第1回】福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 【第2回】福祉事業経営の歴史と報酬改定から見る市場の変遷 【第3回】SWOT分析、5 force分析 【第4回】実際の介護サービス事例検討 【第5回】バリューチェーン分析 【第6回】実際の介護サービス事例検討 【第7回】プロダクトポートフォリオマネジメント 【第8回】実際の介護サービス事例検討 【第9回】マーケティングの3CとSTP 【第10回】実際の介護サービス事例検討 【第11回】サービスマーケティングミックス 【第12回】実際の介護サービス事例検討 【第13回】福祉事業の組織と経営 【第14回】近年の市場トレンドと課題 【第15回】課題分析の提示</p>
受講生への要望	<p>市場は生き物です。講義だけでは市場を理解することはできません。普段より身の回りの出来事に感覚を研ぎ澄ましておき、興味を持つことが大切です。受け身にならず、授業への主体的な参加を期待します。</p>
評価の方法	<p>最終発表40%、レポート60%</p>
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 ・各回の授業テーマに基づいた教材を提供します 【参考書】 ・授業内で適宜指示します</p>

授業科目

医療・福祉教育方法特論

担当教員	塚本 忠男
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法についての学びを深め、指導者としての実践に生かすことができるようになる。 ・指導方法に関する基礎的概念を習得することができる。 ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>本講義では、医療・福祉分野における教育方法について学習する。そして、教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。授業の後半は、演習形式で履修者に課題に取り組んでもらう予定である。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 オリエンテーション 【第2回】 指導の技術 【第3回】 指導のデザイン 【第4回】 指導での目標づくり 【第5回】 指導者の姿勢と心構え 【第6回】 体験的学習の意義と課題 【第7回】 近代教育思想 【第8回】 教育の原理・方法 【第9回】 発達と学習心理 【第10回】 コミュニケーションの基礎理論 【第11回】 指導計画の作成と応用（1） 【第12回】 指導計画の作成と応用（2） 【第13回】 現場での教育理論の応用（1） 【第14回】 現場での教育理論の応用（2） 【第15回】 総括
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学習態度であること。 ・指導者としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料はファイルして保管すること。
評価の方法	発表内容（40％）とレポート（60％）で総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>テキストとして必要に応じてプリントを配布する。 参考書は授業内で適宜紹介する。</p>

授業科目

社会調査特論

担当教員	白石 憲一
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計的考え方の理解。 ・ 統計分析の手法の習得。 ・ データから豊かで実りのある情報を引き出すための技法の習得。 ・ データ分析の進め方の習得。 ・ 統計ソフトの操作の習熟。 ・ 統計理論の習得。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>本講座は、数量データの分析をするために、どのような知識や手法が必要となるかを説明する。具体的には、相関係数、カイ2乗検定、t検定、回帰分析の手法を中心に学習していく。授業ではパソコンとデータを用いて、実践形式で学習していく。最後に各自の関心に従って、受講生自らが研究計画を立て、数量データによる統計分析を行っていく。</p>
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション 【第2回】 統計分析の進め方 【第3回】 データの収集と編成 【第4回】 グラフ表現 【第5回】 統計ソフトの基本操作 【第6回】 データのばらつき 【第7回】 データの操作と比較 【第8回】 散布図と相関係数 【第9回】 データの品質 【第10回】 クロス集計表と仮説検定 【第11回】 平均値の差の検定 【第12回】 回帰分析（1） 【第13回】 回帰分析（2） 【第14回】 統計分析プロジェクト（1） 【第15回】 統計分析プロジェクト（2）</p>
受講生への要望	<p>修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。</p>
評価の方法	<p>学習態度 40%、試験等 60%</p>
テキスト・参考書	<p>基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。</p>

授業科目

社会福祉経営研究・演習

担当教員	黒澤 貞夫
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	社会福祉経営を、経営学と社会福祉の総合の視点から学ぶ。まず社会福祉の原理・展開と事業経営における組織・運営等基本的事項を関連づける。そして実際の場面から理論と実践を総合的に学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	<ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉の基本的思想、価値、知識、実践技法を学ぶ。 ②我が国の社会福祉の事業の成り立ち及び展開を学ぶ。 ③一般企業の経営学の基礎を学ぶ。 ④経営学マネジメントと福祉事業の関連を考える。 ⑤実際の事例を通して社会福祉経営のあるべき方向性を考える。
授業計画	<p>【第1回～第6回】 社会福祉経営の基盤となる、福祉の思想、生活支援の構造、社会福祉の法体系等を学ぶ。福祉事業の制度の仕組みを理解する。</p> <p>【第7回～第12回】 関連する文献等を分担して読み、企業経営の基礎を身につける。学習の過程で我が国の福祉経営との関連を考える。</p> <p>【第13回～第18回】 我が国の高齢者福祉、障害者福祉等のパラダイムの変革を学び、我が国の福祉事業の経営の実現を理解し今後の方向性を考える。</p> <p>【第19回～第30回】 社会福祉経営に関する課題を、各人が取り上げ理論と実践の視点から研究し合う。</p>
受講生への要望	指定の文献、課題等について事前の学習を期待したい。
評価の方法	出席状況：30%、学習態度：20%、期末レポート：50%を目途として総合的荷評価する。
テキスト・参考書	<p>テキスト 「生活支援学の構想」黒澤貞夫、川島書店 「ゼミナール経営学入門」伊丹敬之、加護野忠男、日本経済新聞出版社</p> <p>参考書 「マネジメント」P.F.ドラッカー：ダイヤモンド社：上田惇生編訳</p>

授業科目

福祉事業経営特論

担当教員	川島 良雄				
開講期	1年次				
単位	2				
学修目標	従来型の社会福祉施設の経営論は、サービス提供に関する方法論が中心であった。ここから脱却し、福祉事業の経営管理全体を学ぶ必要がある。この授業では、組織の運営管理、リスクマネジメントを中心にしながら経営・管理運営の基本を学ぶ。				
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業経営の変遷 2. 福祉事業の事業主体 3. 事業組織の管理運営 4. 福祉事業経営とリスクマネジメント 5. 福祉事業経営の課題と将来 				
授業計画	<p>第1回 福祉サービスにおける組織・経営</p> <p>第2回 福祉サービスにかかわる組織や団体 ①法人</p> <p>第3回 福祉サービスにかかわる組織や団体 ②社会福祉法人</p> <p>第4回 福祉サービスにかかわる組織や団体 ③社会福祉法人改革</p> <p>第5回 福祉サービスにかかわる組織や団体 ④特定非営利法人</p> <p>第6回 組織と経営の基礎理論 ①経営戦略と事業計画</p> <p>第7回 組織と経営の基礎理論 ②組織と管理運営</p> <p>第8回 組織と経営の基礎理論 ③集団の力学とリーダーシップ</p> <p>第9回 福祉サービスにおけるサービスマネジメント</p> <p>第10回 福祉サービスの質の評価</p> <p>第11回 苦情対応とリスクマネジメント</p> <p>第12回 人事管理と労務管理</p> <p>第13回 会計管理と財務管理</p> <p>第14回 情報管理と戦略的広報</p> <p>第15回 福祉事業経営の課題と将来</p>				
受講生への要望	講義形式となるが、より理解を深めるために質疑や議論の展開を期待していません。積極的授業参加・発言をお願いします。				
評価の方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">業時のレジュメ・小レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td style="text-align: right;">70%</td> </tr> </table>	業時のレジュメ・小レポート	30%	期末レポート	70%
業時のレジュメ・小レポート	30%				
期末レポート	70%				
テキスト・参考書	<p>テキスト</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉サービスの組織と経営』中央法規</p> <p>参考文献</p> <p>『マネジメント』P.F.ドラッカー著 ダイアモンド社</p> <p>『チームが機能するとはどういうことか』エイミー・C・エドモンドソン著英治出版</p>				

授業科目

■ 人事労務管理特論

担当教員	森田 隆夫
開講期	1、2年次
単位	2（選択）
学修目標	現代社会福祉事業における労務管理の意義を理解するとともに、人事・労務法制、判例等を通じて具体的に思考すること。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉事業の経営管理における人事・労務管理の意義と効用について概観するとともに、これに関わる法制度や理論を法令、通達、判例および事件を通して具体的実務的に研究する。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理</p> <p>【第3回】 人事管理の基本的事項の概説</p> <p>【第4回】 労務管理の意義</p> <p>【第5回】 労務管理と労務法制</p> <p>【第6回】 労働契約法のあらましⅠ</p> <p>【第7回】 労働契約法のあらましⅡ</p> <p>【第8回】 労働契約法のあらましⅢ</p> <p>【第9回】 労働基準法のあらましⅠ</p> <p>【第10回】 労働基準法のあらましⅡ</p> <p>【第11回】 労働基準法のあらましⅢ</p> <p>【第12回】 労働組合法のあらまし</p> <p>【第13回】 労働関係調整法のあらまし</p> <p>【第14回】 労働関係判例の動向等Ⅰ</p> <p>【第15回】 労働関係判例の動向等Ⅱ</p>
受講生への要望	予習、復習を行うこと。質問に答えてもらう場合もあるので、特に事前の学習を心掛けて頂きたい。 学部で憲法、社会福祉法制等の授業を受けておくことが望ましい。
評価の方法	プレゼン（40%）、提出課題の内容（60%）により判断する。
テキスト・参考書	<p>[テキスト]</p> <p>・宇山勝儀・小林理 編著「社会福祉事業経営論」光生館 2011年</p> <p>[参考書]</p> <p>・講義時にその都度説明する。</p>

授業科目

福祉事業経営研究・演習

担当教員	川島 良雄	
開講期	1、2年次	
単位	2	
学修目標	福祉事業経営における経営と管理について学びを深め、福祉事業経営について主体的に考え行動する知識と技術の獲得を目指す。	
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業経営の変遷 2. 福祉事業の管理運営 3. サービスの評価と苦情対応 4. 福祉人材の確保と育成 5. 福祉事業経営の課題と将来 	
授業計画	第1回 福祉事業経営研究の意味 第2回 福祉事業の意義と経営構造 第3回 社会福祉事業の歴史 第4回 社会福祉事業の関連法制度 第5回 社会福祉事業の経営と管理 第6回 社会福祉事業の組織管理 第7回 社会福祉サービスの人事管理 第8回 社会福祉事業の労務管理 第9回 社会福祉事業の財務・会計管理 第10回 社会福祉事業のサービス管理 第11回 社会福祉事業の情報管理 第12回 社会福祉事業の危機・安全管理 第13回 ステークホルダーマネジメント 第14回 社会福祉事業経営～まとめ～ 第15回 最終レポートのテーマと研究方法	第16回 行政の役割 第17回 行政の役割・発表と討論 第18回 事業経営の実態 第19回 事業経営の実態・調査 第20回 事業経営の実態・発表と討論 第21回 就労の実態 第22回 就労の実態・調査 第23回 就労の実態・発表と討論 第24回 退職と人材確保 第25回 退職と人材確保・調査 第26回 退職と人材確保・発表と討論 第27回 リスクマネジメント 第28回 リスクマネジメント・調査 第29回 リスクマネジメント・発表と討論 第30回 福祉事業経営～まとめ
受講生への要望	演習科目であるため、積極的な準備と発言が重要です。	
評価の方法	演習時のレジュメ・発言等 20% 中間レポート 20% 最終レポート 60%	
テキスト・参考書	テキスト 『社会福祉事業経営論』宇山勝儀・小林理 編著 光生館 参考文献 『福祉事業経営特論』西川克己 自由国民社 『エイジレスマーケット』デヴィット・B・ウルフ 中央法規 『福祉を変える経営』小倉昌男著 日経BP 『行動分析学マネジメント』舞田竜宣・杉山尚子 日本経済新聞社	

授業科目

■ 地域福祉経営特論

担当教員	笹澤 武
開講期	1年次
単位	2
学修目標	地域包括ケアを理解し、さらに地域包括支援センター等における支援内容や支援方法を理解することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	地域包括ケアや地域包括支援センターの支援について学習し、地域における支援の実際について学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 地域包括ケアの仕組み・方法論</p> <p>【第3回】 地域包括ケアの事例研究</p> <p>【第4回】 地域包括支援センターの現状と課題</p> <p>【第5回】 地域包括支援センターの支援の事例研究</p> <p>【第6回】 他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題</p> <p>【第7回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</p> <p>【第8回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</p> <p>【第9回】 地域福祉の概念</p> <p>【第10回】 地域福祉と地域住民・地域コミュニティ</p> <p>【第11回】 地域福祉と市町村社会福祉協議会</p> <p>【第12回】 地域福祉と福祉サービス提供民間組織</p> <p>【第13回】 地域福祉と市町村行政、制度的協議機関</p> <p>【第14回】 地域福祉と民生委員・児童委員</p> <p>【第15回】 地域福祉の財源と共同募金</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容（100％）により判断する。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

社会福祉行財政特論

担当教員	高井 健二
開講期	1年次
単位	2
学修目標	社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や自治体の抱える社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策の在り方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。
講義の内容 (基本的枠組)	中央法規出版発行の最新の「社会福祉の動向」(社会福祉の動向編集委員会)を基本テキストとして、社会福祉行財政を取り巻く今日的な課題を読み解いていく。また、自治体や施設の現場の状況を直接肌で感じるため、具体的な資料に当たるほか見学又はヒアリングの機会を設ける。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 社会福祉行財政概説 (仕組みと運営・講義)</p> <p>【第3回】 テキスト第2章「社会福祉の基盤」(ゼミ形式)</p> <p>【第4回】 テキスト第4章「地域福祉」 (〃)</p> <p>【第5回】 テキスト第3章「公的福祉」 (〃)</p> <p>【第6回】 テキスト第5章「児童家庭福祉」 (〃)</p> <p>【第7回】 〃</p> <p>【第8回】 テキスト第6章「障害者福祉」 (〃)</p> <p>【第9回】 〃</p> <p>【第10回】 テキスト第7章「高齢者福祉」 (〃)</p> <p>【第11回】 〃</p> <p>【第12回】 テキスト第1章「最近の動向と課題」 (〃)</p> <p>【第13回】 社会福祉の現場視察 (施設見学)</p> <p>【第14回】 〃</p> <p>【第15回】 まとめ (レポート発表)</p>
受講生への要望	テキストを良く読みこなして、不明な点、疑問点は事前に調べておくこと、受講生が交代でテキストの解説(自分なりの分析・課題認識を加えて)を行うものとする。発表は時間の関係上、特に関心を持った項目だけでも良いこと(レジュメ作成・受講生分用意)。発表の内容に対して他の受講生が質問したり、意見を述べ合うことで内容がより深みのあるものになる。
評価の方法	学習態度(30%)、レポート(70%)で総合的に判断する。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 「社会福祉の動向(最新版)」中央法規出版</p> <p>【参考書】 「社会福祉行財政と福祉計画」中央法規出版 「社会福祉行政論(行政・財政・福祉計画)」ミネルヴァ書房 「国民の福祉と介護の動向(最新版)」厚生労働統計協会</p>

授業科目

■ 地域福祉計画特論

担当教員	川村 匡由
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	地域福祉経営としての計画の重要性を理解するまでを到達目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	地域福祉の理論と地域福祉計画の策定・実施・進行管理を実証的に学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 地域福祉の概念の整理</p> <p>【第2回】 地域福祉の動向と課題</p> <p>【第3回】 地域福祉計画の現状</p> <p>【第4回】 地域福祉計画の策定</p> <p>【第5回】 地域福祉計画の進行管理</p> <p>【第6回】 地域福祉計画の事例研究①</p> <p>【第7回】 地域福祉計画の事例研究②</p> <p>【第8回】 地域福祉計画の事例研究③</p> <p>【第9回】 地域福祉計画の事例研究④</p> <p>【第10回】 地域福祉計画の事例研究⑤</p> <p>【第11回】 地域福祉計画の事例研究⑥</p> <p>【第12回】 地域福祉計画の事例研究⑦</p> <p>【第13回】 地域福祉計画の事例研究⑧</p> <p>【第14回】 フリーターキング</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	各市町村や社協の地域福祉計画を入手し、比較研究する。
評価の方法	基準：プレゼン30点、授業内での発言20点、レポート50点
テキスト・参考書	川村匡由・地域福祉とソーシャルガバナンス・中央法規

授業科目

■ 地域福祉経営研究・演習

担当教員	笹澤 武
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	地域福祉の位置づけ及び地域福祉経営のための基本課題等について、講義、レポート、発表討議及び講評等を通じて学修し、地域福祉経営の視点と考え方を習得することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	下記授業計画に記載される地域福祉経営に関する主要な基本課題について、導入講義として、大項目に関する講義、「基本講義」と、各論的な「テーマ講義」を随時配するとともに、履修生による「発表と討議」及び「レポート提出」により研究・演習を行う。
授業計画	<p>【第1回】 基本講義1「地域福祉への多角的アプローチ」</p> <p>【第2回】 基本講義2「地域福祉の現状と今日的課題」</p> <p>【第3回】 テーマ講義①「地域福祉の主要理論の系譜」</p> <p>【第4回】 テーマ講義②「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」</p> <p>【第5回】 ～【第8回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第9回】 テーマ講義③「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」</p> <p>【第10回】 テーマ講義④「社会福祉の機能、資源の地域配置」</p> <p>【第11回】 ～【第14回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第15回】 自由討議、中間のまとめ</p> <p>【第16回】 基本講義3「地方分権と地域福祉行政」</p> <p>【第17回】 基本講義4「地域福祉と社会福祉協議会」</p> <p>【第18回】 テーマ講義⑤「地域福祉計画の系譜と課題」</p> <p>【第19回】 テーマ講義⑥「民間組織による地域福祉推進の課題」</p> <p>【第20回】 ～【第23回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第24回】 テーマ講義⑦「コミュニティソーシャルワーク」</p> <p>【第25回】 テーマ講義⑧「地域福祉ニーズ、その探求方法」</p> <p>【第26回】 ～【第29回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第30回】 自由討議、まとめ</p>
受講生への要望	基本講義及びテーマ講義及び示唆された文献・資料等でレポートを作成し発表するとともに、それに基づいて討論が行えるよう準備すること。
評価の方法	レポート提出(70%)・発表(30%)で総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 『新・社会福祉士養成講座第9巻地域福祉の理論と方法(第2版)』 (中央法規出版、2010年)</p> <p>【参考書】 日本地域福祉学会編『地域福祉事典』(2006年中央法規出版)。 岡村重夫著『地域福祉論』(光生館、1974年) 大橋謙策『地域福祉』(放送大学教育振興会、1999年) 三浦文夫『増補改訂社会福祉政策研究』(全国社会福祉協議会、1995年)。 『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告：地域における「新しい支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』 (全国社会福祉協議会、2008年)</p>

授業科目

地域看護研究・演習

担当教員	樋口キエ子・島田壽美子・西山智春
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	<p>1) 地域看護の高度な実践力の修得</p> <p>(1) 地域看護の実態把握と課題を明らかにし、看護活動改善のための評価方法と改善に向けた検討ができる。</p> <p>(2) 看護専門職者として地域で生活する人々への多様な看護実践の方法を修得できる。</p> <p>(3) チームケアにおいてコーディネートを行い、リーダー的役割を果たすことができる。</p> <p>2) 地域看護の研究法の修得</p> <p>(1) 地域看護の国内外の研究動向を学び、自己の研究課題の焦点を絞り、自己の研究の位置づけを明らかにできる。</p> <p>(2) 地域看護の研究テーマと研究方法を具体化させるプロセスを修得できる</p>
講義の内容 (基本的枠組)	<p>本科目では、地域看護の多様な看護実践力の修得をめざし、地域看護の研究と実践力強化のために、地域看護の概念、理論、動向、現状について理解をする。その上で、地域看護研究の動向、研究計画、研究方法について学ぶ。</p> <p>研究課題を現場の看護活動に参加して、調査や事例検討等によりまとめる実践的研究を行う。地域の公的(行政的)・民間サービスに関連する看護実践力の強化をめざして実践例を用いた演習を行う。特に地域で生活する人々への多様な看護ができる専門職者として、実践力強化、相談、指導、コーディネート、倫理的課題の調整を検討できる高度な実践能力を修得する。</p>
授業計画	<p>【第1回】 科目ガイダンス</p> <p>【第2回】 地域看護の概念・取り巻く社会背景・地域包括ケアシステム</p> <p>【第3回】 在宅看護の特徴・対象(健康段階・発達段階)・家族の特性</p> <p>【第4回】 地域看護研究の動向-1 (3回に関する研究論文のクリテイクと報(質的な研究))</p> <p>【第5回】 在宅看護に関する諸制度・訪問看護活動</p> <p>【第6回】 チームケア・多職種連携、ケアマネジメント</p> <p>【第7回】 地域看護研究の動向-2 (5-6回に関連する研究論文のクリテイクと報告(質的な研究))</p> <p>【第8回】 在宅療養移行支援・在宅医療の地域ネットワークの構築(認知症療養者とその家族の支援)</p> <p>【第9回】 地域看護研究の動向-3 (8回に関連する研究論文のクリテイクと報告(質的な研究))</p> <p>【第10回】 地域看護管理活動</p> <p>【第11回】 子どもと子育て世代の地域包括ケアに関する理論の活用Ⅰ 母親役割獲得の理論に基づいた母子の健康支援 ①愛着 ②生活モデル ③ソーシャルキャピタル④多職種連携</p> <p>【第12回】 子どもと子育て世代の地域包括ケアに関する理論の活用Ⅱ 家族機能の支援</p> <p>【第13回】 子どもと子育て世代の地域包括ケアと母子保健行政動向Ⅰ 母子保健行政の動向</p> <p>【第14回】 子どもと子育て世代の地域包括ケアと母子保健行政動向Ⅱ 健やか親子21</p> <p>【第15回】 子どもと子育て世代の地域包括ケアと母子保健行政動向Ⅲ 切れ目のない妊産婦、乳幼児への支援</p> <p>【第16回】 子育て世代包括支援センターガイドラインの検証</p> <p>【第17回】 地域における子どもと子育て世代に対する地域包括ケアモデル事業案のシステムティック・レビュー</p> <p>【第18回】 地域における子どもと子育て世代に対する地域包括ケアモデル事業案の作成Ⅰ</p> <p>【第19回】 地域における子どもと子育て世代に対する地域包括ケアモデル事業案の作成Ⅱ</p> <p>【第20回】 地域における子どもと子育て世代に対する地域包括ケアモデル事業案の発表</p> <p>【第21回】 研究分野(小児看護学含む)に関する研究の動向</p> <p>【第22回】 看護学研究で求められる研究倫理</p> <p>【第23回】 研究論文のクリテイク(量的な研究)</p> <p>【第24回】 同上</p> <p>【第25回】 看護研究方法:量的な研究の基礎(1)量的データの収集方法</p> <p>【第26回】 看護研究方法:量的な研究の基礎(2)量的データの分析方法</p> <p>【第27回】 家族介入プログラム開発と評価</p> <p>【第28回】 同上</p> <p>【第29回】 研究計画書の作成</p> <p>【第30回】 同上</p>
受講生への要望	事前に準備を十分にした上で講義に参加すること。
評価の方法	授業時のレポート:30% プレゼンテーション:40% 期末レポート:30%
テキスト・参考書	授業内で適宜指導する。

授業科目

■ ソーシャルワーク特論 I

担当教員	新木 恵一
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	ソーシャルワークで用いられる専門的な援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握と実践が行えるようにさせる。
講義の内容 (基本的枠組)	個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。更に自身の実践の省察を行う。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 治療モデル、環境モデル、生活モデル</p> <p>【第3回】 ストレングスモデル</p> <p>【第4回】 心理的アプローチ</p> <p>【第5回】 機能的アプローチ</p> <p>【第6回】 問題解決アプローチ</p> <p>【第7回】 危機介入アプローチ</p> <p>【第8回】 行動変容アプローチ</p> <p>【第9回】 エンパワメントアプローチ</p> <p>【第10回】 組織におけるソーシャルワーク</p> <p>【第11回】 組織におけるソーシャルワークに関する演習</p> <p>【第12回】 チームアプローチ</p> <p>【第13回】 地域におけるソーシャルワーク</p> <p>【第14回】 地域におけるソーシャルワーク I</p> <p>【第15回】 地域におけるソーシャルワーク II</p>
受講生への要望	課題等について可能な限り議論を行うので、主体的に授業に参加することを望む。
評価の方法	主体性を持ち新たな視点で積極的に授業に取り組んでいるかで50%評価。課題レポート内容で50%評価を基本とする。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

■ ソーシャルワーク特論Ⅱ

担当教員	真下 潔
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークについて学んだ理論等をスキルに結びつける。 2. 事例研究（児童福祉）を主にソーシャルワークの多様性を理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルを研究活動に活かす。 4. 他職種との連携と協働を理解する。
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの実践的モデルの分析と展開 2. ソーシャルワークの事例研究（児童福祉） 3. 家庭支援の実際（現代の家族の変容） 4. 多職種連携
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション・ジョイニング</p> <p>【第2回】 テーマの設定と設計</p> <p>【第3回】 多職種連携と協働</p> <p>【第4回】 事例研究</p> <p>【第5回】 相談者への対応</p> <p>【第6回】 事例研究</p> <p>【第7回】 ケースワークの仕組み</p> <p>【第8回】 事例研究</p> <p>【第9回】 相談者の環境の特性</p> <p>【第10回】 事例研究</p> <p>【第11回】 親と子を取り巻く社会の状況</p> <p>【第12回】 事例研究</p> <p>【第13回】 「家族」を考える</p> <p>【第14回】 事例研究</p> <p>【第15回】 授業の総括</p>
受講生への要望	<p>積極的な意見発言を望む。そのために、課題に沿った文献をリストアップし、読めるようにすること。</p>
評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加と発言等取り組み30% 2. レポート70%
テキスト・参考書	<p>テキストは特になし。講義のなかで補完していく。 これまでのテキストを活用したい。</p>

授業科目

■ ケアマネジメント特論

担当教員	黒澤 貞夫
開講期	1年次
単位	2
学修目標	<p>老い、病、心身の障害等を担っている人々の生活課題について、国家はそれらの人々が幸せを求め、人間に値する生活が保障されるよう法制度による生活支援の施策を講じている。ケアマネジメントは、その制度・施策が法の理念に即して適時・適切に行われるための社会的意義と方法について学ぶ。そしてケアマネジメントの価値・知識・技術を身につける。</p>
講義の内容 (基本的枠組)	<p>(1) ケアマネジメントの社会的存在の意義と役割について学ぶ。 (2) ケアマネジメントにおける生活支援の意義と実践について学ぶ。 (3) ケアマネジメントの展開過程について学ぶ。 (4) 事例演習によって、ケアマネジメントの実践能力を身につける。</p>
授業計画	<p>【第1回】 ケアマネジメントの現代社会における意義と機能について 【第2回】 ケアマネジメントにおける人間の尊厳と自立等について 【第3回】 ケアマネジメントにおける自立支援について 【第4回】 ケアマネジメントにおける価値と倫理について 【第5回】 ケアマネジメントの展開過程の全体構造について 【第6回】 ケアマネジメントの計画について (1) 【第7回】 同上 (2) 【第8回】 ICF (国際生活機能分類) とケアマネジメントについて 【第9回】 同上 (2) 【第10回】 事例演習 (1) 【第11回】 同上 (2) 【第12回】 同上 (3) 【第13回】 ケアマネジメントの専門性について 【第14回】 ケアマネジャーの資質及び向上について 【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	<p>これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、探求していく態度が求められます。</p>
評価の方法	<p>出席状況：30%、学習態度：20%、レポート：50%を目途として総合評価する。</p>
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 「生活支援学の構想」黒澤貞夫、川島書店 「ICFを取り入れた介護過程の展開」黒澤貞夫編著、建帛社 【参考書】 「介護福祉の専門性を問い直す」黒澤貞夫著、中央法規出版</p>

授業科目

■ ソーシャルワーク研究・演習

担当教員	中越 信一
開講期	1. 2年次
単位	2
学修目標	1 ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2 ソーシャルワーク研究方法についてさらに広く深く学ぶ。 3 ソーシャルワーク研究に関する論文の読解と研究。
講義の内容 (基本的枠組)	ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容を深く理解するために、ソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み研究する。
授業計画	【第1回】 イントロダクション (研究テーマと研究方法) 【第2回】 ソーシャルワークの基盤と専門職 【第3回】 ソーシャルワークの理論と方法 【第4回】 ソーシャルワークの研究課題と評価 【第5回】 地域を基盤としたソーシャルワーク 【第6回】 個と地域の一体的支援 【第7回】 ネットワークの活用とソーシャルワーク 【第8回】 事例研究 【第9回】 レポートによる発表、討議等 【第10回】 事例研究 【第11回】 レポートによる発表、討議等 【第12回】 事例研究 【第13回】 レポートによる発表、討議等 【第14回】 事例研究 【第15回】 レポートによる発表、討議等 【第16回】 事例研究 【第17回】 レポートによる発表、討議等 【第18回】 事例研究 【第19回】 レポートによる発表、討議等 【第20回】 事例研究 【第21回】 レポートによる発表、討議等 【第22回】 事例研究 【第23回】 レポートによる発表、討議等 【第24回】 事例研究 【第25回】 レポートによる発表、討議等 【第26回】 事例研究 【第27回】 レポートによる発表、討議等 【第28回】 事例研究 【第29回】 レポートによる発表、討議等 【第30回】 自由討議・まとめ
受講生への要望	この授業は、ゼミ形式で進めるので、十分事前準備をして授業に出席すること。事例については、高齢者、障害者、児童、災害、権利擁護、地域福祉、生活困窮、多機関・多職種連携等から受講生の関心及び研究テーマ等により協議しながら進める。
評価の方法	プレゼン30%、授業内での発言20%、レポート50%で総合的に評価する。
テキスト・参考書	基本教材として、必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。 各自が報告する論文等は各自で用意する。

修士論文研究指導の概要

<p>鈴木 利定</p>	<p>我々の人生にとって大切な道德生活の基礎というべき意味において倫理道德の理論的実践両面について研究する。福祉倫理特論研究は、福祉倫理がどのようにして始まったか、現代を経て、将来は如何にあるべきか、その姿を研究し論証してゆく。即ち、人の道とした福祉倫理の原点より始めて、現代及び将来への持続を研究するものである。</p> <p>今日はまさに多文化の時代である。その観点を踏まえて、福祉に携わる指導者共通の福祉観とは何かについて研究してゆくものである。高潔な人格の養成は加齢により益々その輝きを増してゆく。その人格達成法について研究する。我が国上代の社会的秩序より生じた倫理より今日及び将来に至るまでの福祉倫理の特性についての研究を行う。</p>
<p>笹澤 武</p>	<p>2000年に成立した社会福祉法は、これまでの国や行政を中心とした、いわゆる福祉サービス供給サイドからの措置行政であったものを、利用者サイドからの福祉サービス体系に転換することを目的とするものであった。特に、この中の第4条（地域福祉の推進）と第107条（市町村地域福祉計画）は、地方分権一括法の施行に関連して、地域住民が抱えている様々な生活問題や複雑化・高度化する福祉ニーズに対して、適切な利用促進等の「身近な福祉」を目的としたものである。研究指導では、地域福祉活動に対して積極的な住民参加を促進したり、都道府県や市区町村の福祉に関するユニークな事例を実態調査し分析して多面的・多角的側面から地域包括ケアを中心に研究する。院生は常に問題意識を持って論文作成に臨んでもらいたい。</p> <p>修士論文は修士1年4月から論文の書き方も踏まえて、個人指導を計画的に実施する。</p>

<p>江島 正子</p>	<p>世界の各国と同様、現在、わが国においても社会は大きく変動しています。幼いこどもの一番大切な家庭生活も、保育や教育の現場も、又こどもの福祉の現場においても同じです。</p> <p>幼児教育の視点に立って、こどもの成長と発達のため何を解決しなければならないかを考え、いかにわれわれはその問題を解決できるかについて考察を加え、こどもに内在する「いのち」をもっとも尊重する援助のあり方を研究します。</p> <p>研究事例として以下のようなテーマが挙げられるでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) こどもの家庭生活と福祉について (2) 環境としての植物・園芸との関わり方について (3) 保護者と園との総合的考察について (4) 保育者をめぐる現代的課題について (5) ソーシャルアクションの試みとしての支援について 等々
<p>大野 俊和</p>	<p>修士1年4月から毎週、週1回90分程度の院ゼミミーティングに参加できることを条件とする。</p> <p>その際、他の大学院生による進捗報告と研究報告があるがすべてに出席すること。</p> <p>4月の面談を通じて、教員との話し合いの中で論文テーマを決定する。希望者の関心領域が心理学や社会学に近く、定量データを用いた実証的研究に関するものであることが望ましい。各自にアサインされた課題の発表と関連論文の発表を行っていくことになる。なお、修士1年から修士論文発表会での発表と修士1年3月の段階でのミニ修士論文の提出を義務とする。</p>
<p>白石 憲一</p>	<p>各自の関心や問題意識に基づき研究テーマを設定し、数量データに基づき、統計的手法を用いて仮説検証や政策提言に結びつくように指導を行っていく。研究テーマの決定、研究計画の策定、データの収集、データ分析、分析結果の検討、結論の導出、論文の執筆という修士論文作成の一連の流れの中で、個人指導を中心に計画的にサポートしていく。院生は主体的に研究に取り組んでいくことを期待する。修士論文の作成を目的として、研究報告に基づくディスカッションを積極的に行っていく。</p>